

PRAEVIDENTIA DAILY (11月18日)

昨日までの世界：米経済指標下振れの中、ドル：/円は100円を維持

先週金曜は、米経済指標が市場予想比下振れたことから、主要通貨対比では、対円を除いてドルが小幅ながら全面安となった。ユーロ/ドルは1.35ドル台寄せ、ポンド/ドルは1.61ドル台寄せとなっている。豪ドル/米ドルやNZドル/米ドルは、米経済指標の下振れを受けた米ドル安に加えて、米株価が経済指標悪化にも拘らず上昇したこともあって、堅調に推移した。この間、ドル/円相場は、欧州時間入りにかけて一時的に100円を割り込む局面がみられたものの、その後すぐに回復し100.44円へ反発、その後の米経済指標の下振れにも拘らず、米長期債利回りの低下が一時的に留まったこともあって100円台を維持、高値を切り上げる展開となっている。

米経済指標では、NY連銀製造業景況指数が-2.21と前月および市場予想を下回り、かつマイナスに転じた点が嫌気された。鉱工業生産も市場予想を下回り前月比で-0.1%とこちらもマイナスに転じ、設備稼働率も78.1%と前月および市場予想（いずれも78.3%）を下回った。なお、鉱工業生産は前年比換算では+3.2%と、前月の+3.3%から小幅低下したものの高水準を保ったかたちとなっている。

なお、欧州委員会は初めてユーロ圏参加国の2014年予算案を各国議会通過前に審査し見解を公表、イタリアとスペインについてはEUの財政規律に違反する恐れがある（risk of non-compliance）としたほか、フランスについても規律を遵守しているものの、少しでも想定比悪化すると規律違反となる恐れがあると指摘した（欧州委員会「[Draft budgetary plans of euro area Member States](#)」を参照）。これを受けてイタリア、スペインやスペイン国債利回りは上昇したが小幅に留まっており、ユーロへの影響も殆どみられなかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.01	+0.00	-0.01	-0.02	+0.01	+0.03	+0.4	+1.9	+0.1	+0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.3	+0.00	+0.01	+0.00	-0.01	+0.00	+0.01	+0.1	+0.4	+0.2	+0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.3	-0.02	-0.02	+0.00	-0.02	-0.01	+0.01	+0.4	+0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.6	-0.02	-0.02	+0.00	-0.01	+0.00	+0.01	+0.4	+1.7	+0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.8	-0.02	-0.02	+0.00	-0.04	-0.03	+0.01	+0.4	+1.7	+0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.2	-0.01	+0.00	+0.01	+0.01	+0.01	+0.01	+0.4	+0.1	+0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+1.2	-0.02	-0.02	-0.00	-0.08	-0.04	+0.04	+1.6	+7.7	-0.8	+3.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+1.0	+0.03	+0.01	-0.02	-0.01	-0.05	-0.04	+0.5	+1.6	+3.3	+0.01
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.2	+0.01	-0.01	-0.02	+0.12	+0.07	-0.04	+1.5	+1.6	+1.4	-0.0
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+1.0	+0.03	+0.01	-0.02	+0.08	+0.04	-0.04	+1.5	+1.6	+1.4	-0.0
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.6	-0.01	-0.03	-0.02	+0.02	-0.02	-0.04	-0.2	+1.6		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.4	-0.01	-0.02	-0.01	+0.00	-0.04	-0.05	+1.5	+1.6	-0.8	-0.0

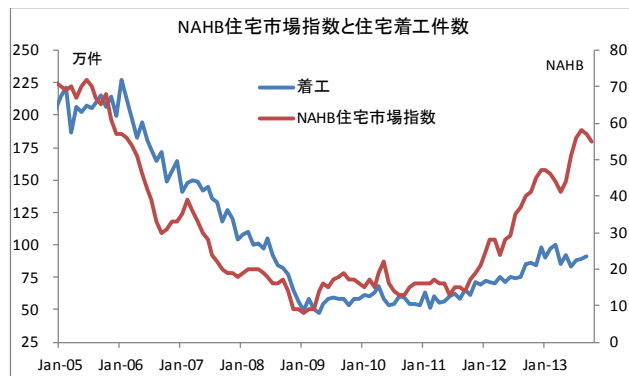
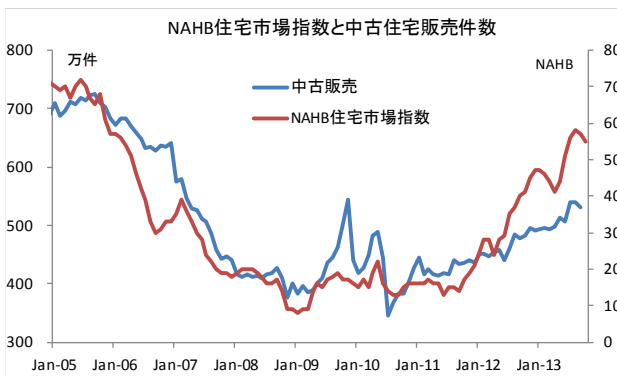
(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：タカよりハトの鳴き声に注目

今週は多くの米経済指標および Fed 高官発言が予定されているため、これらを受けてドル/円が 100 円台を維持できるかが焦点となる。足許、10 月雇用統計で 1 月緩和縮小開始派が若干増えた一方、Yellen 次期議長発言で再び 3 月緩和縮小開始派が増えたとみられる中、今週の米経済指標で、特に小売売上高（20 日）を含めて、複数の指標が市場予想を上回れば 1 月開始期待に振れ、多くが市場予想を下回れば再び 3 月開始期待に振れる、という展開となろう。他方、Fed 高官発言では、Dudley・NY 連銀総裁（18 日）や Evans シカゴ連銀総裁（19 日）などのハト派的なメンバーが、3 月より前の緩和縮小開始の可能性を排除しない、と述べるかどうかが目となる。

本日の相場材料としては、①Rosengren ポストン連銀総裁発言（15：00、中立、投票権あり）、②米 11 月 NAHB 住宅市場指数（0：00、前月、市場予想ともに 55）、③Dudley・NY 連銀総裁発言（2：15、ハト派、投票権あり）、④Plosser フィラデルフィア連銀総裁発言（3：30、タカ派、投票権なし）、などが予定されているが、前述の通り最も注目度が高いのはハト派の Dudley・NY 連銀総裁発言だろう。量的緩和継続の必要性を訴えたとしても概ね想定通りであるためあまりドル売り材料となりにくい一方、緩和縮小開始に否定的な発言をしなかった場合のドル高での反応の方が大きいだろう。但し、次回 12 月 FOMC までにはまだ 11 月雇用統計など多くの経済指標発表があるため、どちらかという指標の解釈が焦点となる Fed 高官発言よりも、複数経済指標の結果の傾向（上振れが多いか、下振れが多いか）の方が重要度は高いだろう。

ややマイナーだが住宅建設業者の業況感を示す NAHB 住宅市場指数は、概ね他の住宅関連指標と同様に動いているが、2012 年以降、中古住宅販売件数や住宅着工件数の増加ペースを大きく上回って改善、業況感と実際の売上との間に乖離がある可能性があり、水準観よりも方向性をより重視すべき指標といえる（下図を参照）。今回は 55 で前月から横ばいの予想となっているが、2 か月連続悪化の後だけに、多少改善してもあまりドル下支え要因とならない一方、下振れの場合は 3 か月連続悪化となるため、ドル売り圧力の方が強くなるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。

ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。